

大課題名：再 モモ枯死障害を軽減する胴枯病対策技術の確立（H31～33年）

小課題名：再 1 胴枯病菌の感染を低減する管理技術の確立（H31～33年）

再 2 胴枯病防除対策の確立（H31～33年）

再 3 枯死障害の総合対策実証（H32～33年）

### 背景とねらい

○モモの枯死障害については、栽培、土壌肥料、病害虫の総合的な観点からプロジェクト課題（H28～32）として、発生原因の究明に取り組んできた。

○試験を進める中、現地の枯死障害樹の多くに胴枯病の発生が確認され、主幹部の傷や樹勢低下、徒長的な生育、苗木の初期管理不足等が、本病菌の感染を助長していたことが明らかとなってきた。

○そこで、本課題では、研究内容を枯死障害の主原因を胴枯病によると推測し、本病菌の発生生態と防除薬剤を明らかにするとともに、感染防止対策、すなわち、栽培管理、凍害対策、施肥管理技術の確立に取り組む。

○総合的に胴枯病菌感染による枯死障害の軽減を図るとともに、胴枯病を要因として除外できれば、その他の要因がある場合も洗い出しが可能となる。

### 試験内容

#### 1 胴枯病菌の感染を低減する管理技術の確立

##### (1) 栽培管理

- ・ 剪定方法や強度（癒合剤を含む）
- ・ 苗木管理

##### (2) 凍害、主幹部障害対策

- ・ 台木の種類による生育の違い
- ・ 主幹部保護資材の選定

##### (3) 施肥技術

- ・ 施肥量、施肥時期
- ・ 窒素含有量（土壌および樹体）

#### 2 胴枯病防除対策の確立

##### (1) 感染時期の確認と防除適期の把握

##### (2) 各種癒合剤の効果確認

##### (3) 有効薬剤の探索と効果の確認

- ・ 休眠枝、苗木による薬剤の比較

#### 3 枯死障害の総合対策実証

### 期待される効果

1 胴枯病菌の感染防止及び感染拡大を軽減する樹体管理技術が確立できる。

2 県内モモ産地における枯死障害の発生が軽減し、栽培面積の維持や生産振興が図られる。

・ 県内モモ栽培面積  
3,430ha

#### 【課題の要請元】

農業革新支援センター（果樹技術普及部）  
部門別代表者

#### 【行政施策上の位置づけ】

新・やまなし農業大綱

3-(2)-②

「やまなしブランド果実の生産、供給体制の強化」

